

高齢社会の現状と愛知県の取組

2019年5月24日（金）
第1回高齢社会懇談会

目 次

- 1 統計データで見る高齢社会の現状と課題
 - (1) 人口・世帯
 - (2) 健康・福祉
 - (3) 生きがい・社会参加
 - (4) 就業
 - (5) 住まい
 - (6) まちづくり
 - (7) 交通安全・防犯

- 2 高齢社会に向けた愛知県の主な取組

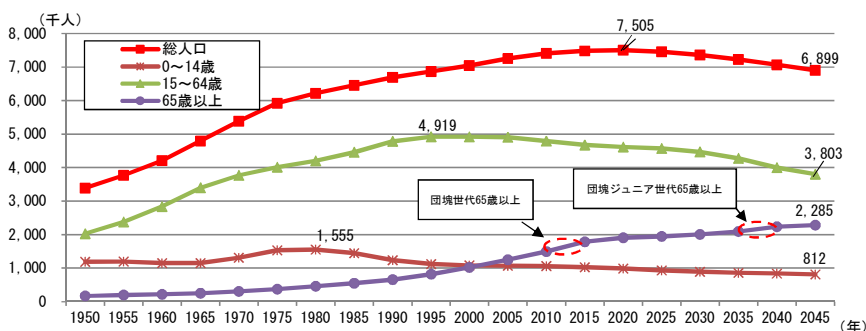
1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

(1) 人口・世帯

1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

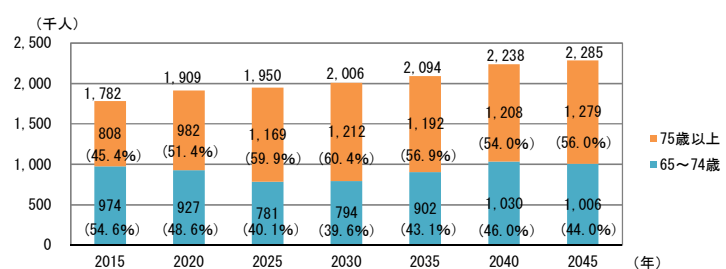
- ・ 全国の総人口は2008年をピークに既に減少しているが、国の推計によると本県ではピークが遅く、2020年を境に減少していくとされている。一方、高齢者人口（65歳以上）は2020年以降も一貫して増加する見込み。
- ・ 今後、団塊の世代の高齢化に伴い、2020年以降は、75歳以上の人口が65～74歳の人口を上回る見込み。

◆本県の人口の推移と将来推計



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計(平成30年(2018年)推計)」

◆本県の65歳以上の高齢者人口の推移と将来推計



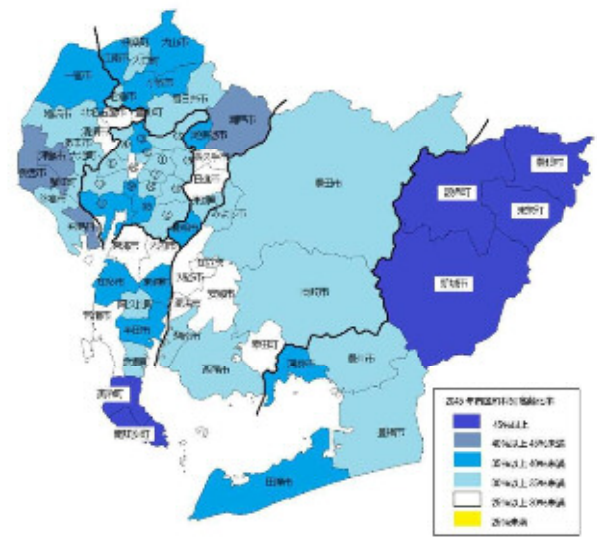
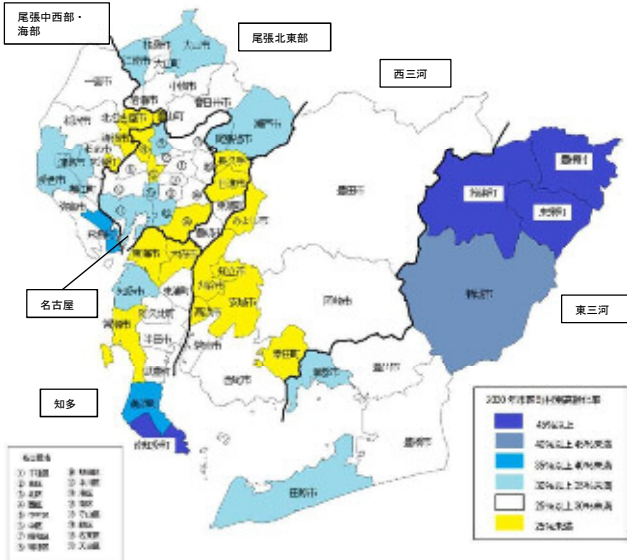
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計(平成30年(2018年)推計)」

1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

- ・高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）について、県全体では2030年で27.3%（全国31.2%）と人口の約4分の1を上回る程度だが、2045年では33.1%（全国36.8%）となり、人口の約3分の1を65歳以上の高齢者が占めることが見込まれる。
- ・地区別では、比較的若い人口構造を維持できる西三河地区に対して、尾張北東部、尾張中西部・海部や東三河の各地区においては、県全体の平均を上回って高齢化が進む見込み。

◆2030年の高齢化率（市区町村別）＜県全体の高齢化率：27.3%＞

◆2045年の高齢化率（市区町村別）＜県全体の高齢化率：33.1%＞

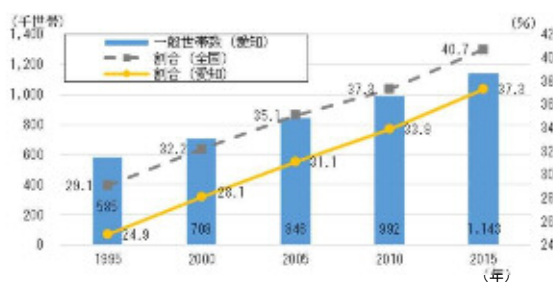


出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年（2018年）推計）」

1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

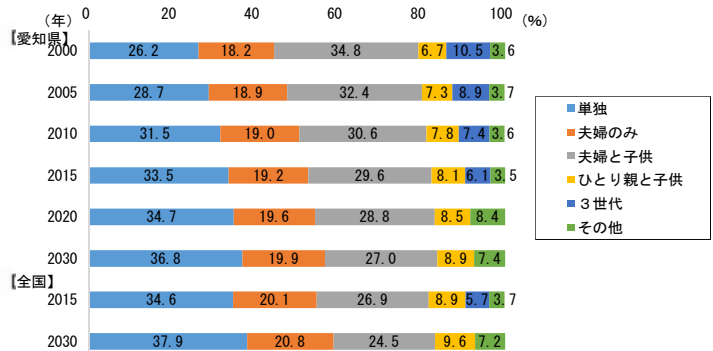
- ・急速な高齢化を背景に、65歳以上の者のいる一般世帯数の割合の上昇が続いており、2015年では全国が40.7%（約2,171万世帯）、本県が37.3%（約114万世帯）となっている。
- ・一般世帯における世帯構成の推移を見ると、夫婦と子供の世帯が減少し、単独世帯数の割合が増加傾向にある。また、65歳以上の単独世帯の割合も全国同様、上昇傾向にある。

◆65歳以上世帯員がいる一般世帯数と一般世帯全体に占める割合



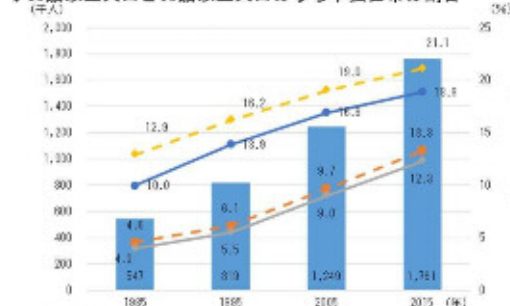
出典：総務省「国勢調査」

◆一般世帯における世帯構成の推移



※2020年以降の3世代世帯の割合については、「その他」に含む。
出典：総務省「国勢調査」、
国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（2019年推計）」

◆65歳以上人口と65歳以上人口のうち単独世帯の割合



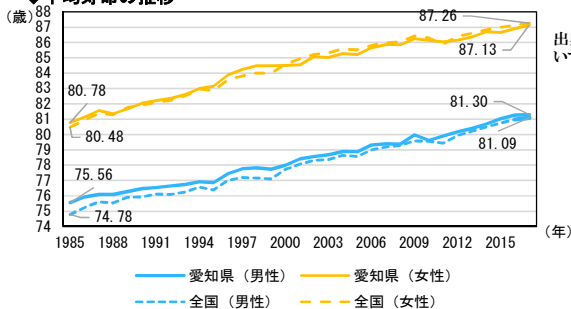
出典：総務省「国勢調査」

(2) 健康・福祉

1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

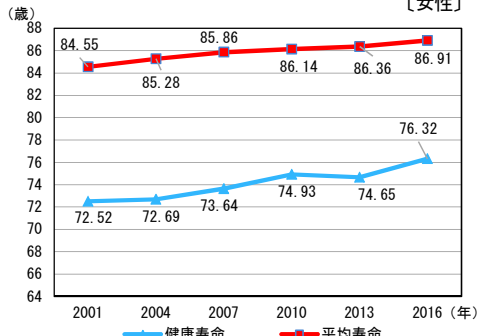
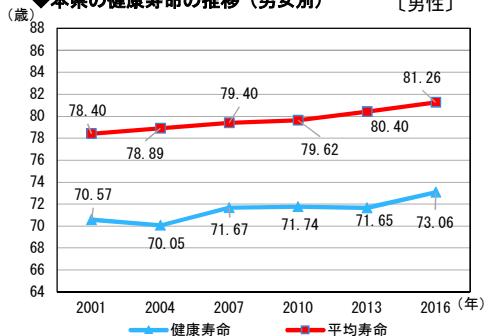
- ・本県の平均寿命は、1985年から2017年の32年間で、男性で75.56歳から81.30歳、女性で80.78歳から87.13歳と、男女ともに5歳以上伸びている。
- ・本県の健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）は、直近の2016年時点で、女性で全国1位の76.32歳、男性で全国3位の73.06歳と高い水準となっており、平均寿命と同様に、健康寿命も延伸傾向にある。（平均寿命と健康寿命の差 男性8歳、女性10歳）

◆平均寿命の推移



出典:愛知県「平成29年愛知県民の平均寿命について」(2018年12月)

◆本県の健康寿命の推移 (男女別)



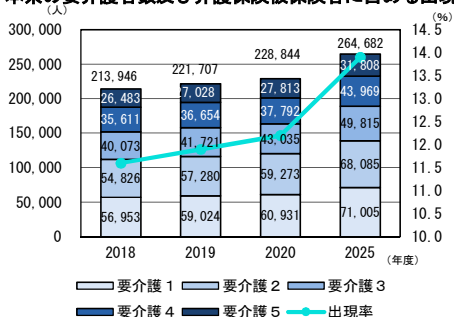
出典:平均寿命は愛知県「平成29年愛知県民の平均寿命について」(2018年12月)、健康寿命は厚生労働科学研究「健康寿命及び地域格差の要因分析と健康増進対策の効果検証に関する研究(平成28～30年度)」

4

1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

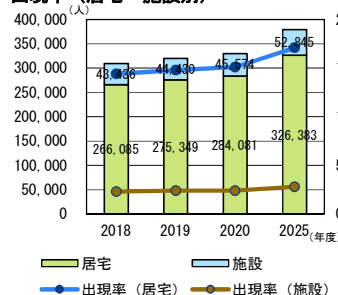
- ・本県の2025年度の要介護者数は、2018年度に比べ、5万人以上増加（2018年度:213,946人→2025年度:264,682人）すると見込まれており、65歳以上の介護保険被保険者に占める割合（出現率）も上昇する見込み（2018年度:11.6%→2025年度:13.9%）。
- ・また、施設に入居する要支援・要介護者に比べ、自宅での要支援・要介護者の増加が大きくなることが見込まれる。
- ・さらに、認知症高齢者数も、2012年の約24万人から、2025年には最大で40万人に増加する見込み。

◆本県の要介護者数及び介護保険被保険者に占める出現率



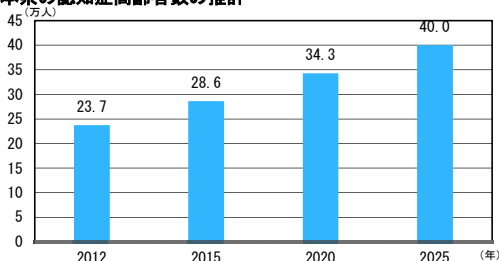
出典:愛知県「第7期愛知県高齢者健康福祉計画」(2018年3月)

◆本県の要支援・要介護者及び介護保険被保険者に占める出現率 (居宅・施設別)



出典:愛知県「第7期愛知県高齢者健康福祉計画」(2018年3月)

◆本県の認知症高齢者数の推計



※「日本における認知症高齢者人口の将来推計に関する研究」による速報値（2015年1月厚生労働省公表）をもとに、愛知県の将来人口推計（65歳以上）に認知症有病率（糖尿病有病率の増加により増加すると仮定した場合）を乗じて算出

出典:愛知県「あいちオレンジタウン構想」(2017年9月)

5

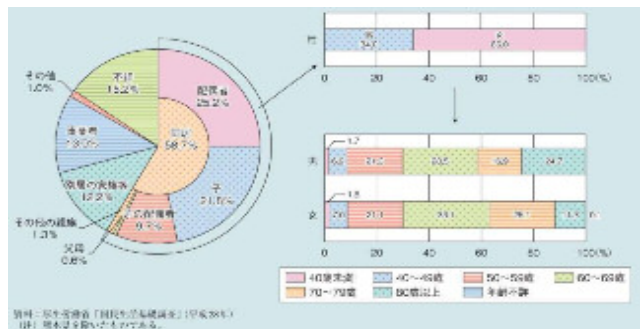
- ・全国調査によると、自分の介護が必要となった場合、どこでどのような介護を受けたいかの希望についてみると、自宅で介護を受けたいと回答した人の割合は全体で73.5%であった。
- ・要介護者等からみた主な介護者の続柄をみると、6割弱が同居者（配偶者、子、子の配偶者）となり、いわゆる「老老介護」のケースも相当数存在している。

◆どこでどのような介護を受けたいか



出典:平成30年版高齢社会白書

◆要介護者等からみた主な介護者の続柄

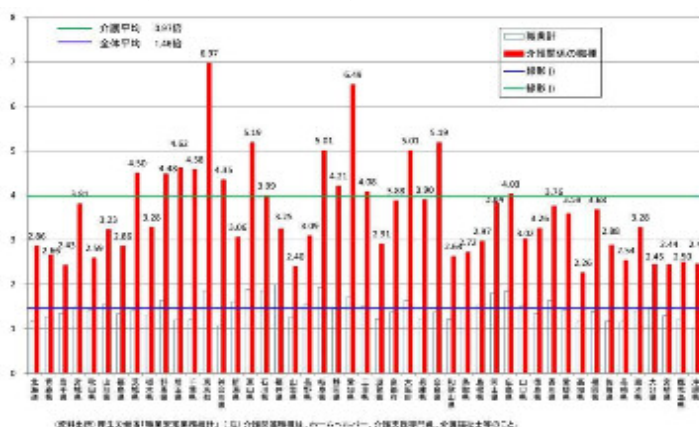


出典:平成30年版高齢社会白書

6

- ・介護に従事する職員数は増加しているものの、依然として介護職員の不足感は高まっており、有効求人倍率は全産業に比べ高い水準にある。特に本県の有効求人倍率は全国で東京に次いで、2番目に高い。
- ・介護人材需給推計によると、本県の2015年の需給推計が釣り合っていると仮定した場合、2025年には11,330人不足すると推計されている。

◆都道府県別有効求人倍率（平成30年8月）



出典:第165回社会保障審議会介護給付費分科会資料

◆本県の介護人材にかかる需給推計

(単位:人)

区分	需要推計	供給推計	需要と供給の差
2015年	91,374	91,374	0
2018年	100,190	98,903	1,287
2020年	107,617	104,147	3,470
2025年	125,273	113,943	11,330

出典:第7期愛知県高齢者健康福祉計画

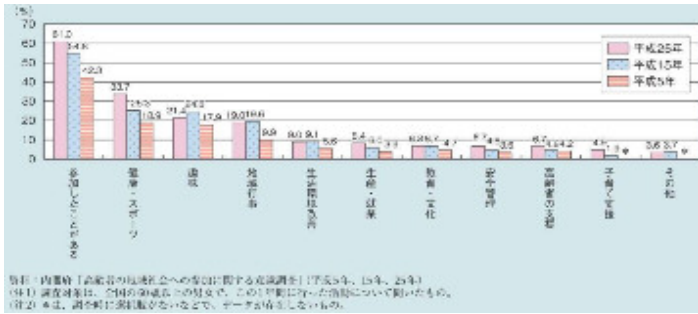
7

(3) 生きがい・社会参加

1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

- ・60歳以上の約6割が趣味などを含めたグループ活動に参加したことがあり、この割合は増加している。
- ・生涯学習を行っている60歳以上の者は4割以上で、内容は趣味的なもの、健康・スポーツが多い。

◆ 高齢者のグループ活動への参加状況（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の社会参加に関する調査調査」（平成25年、23年、21年）
 調査対象は、全国の60歳以上の男女で、この活動に参加した活動について回答したもの。
 ※注：複数回答を容れた調査のため、総和が100%を超えている。

出典：平成29年版高齢社会白書

◆ 60歳以上が行っている生涯学習（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の生涯学習に関する調査調査」（平成27年）
 ※注：調査対象は全国60歳以上の日本国籍を有する者であるが、そのうち60歳以上の割合を抜粋して掲載

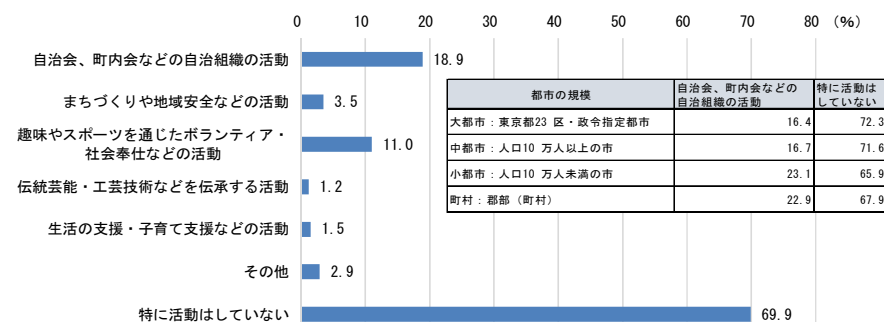
出典：平成30年版高齢社会白書

8

1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

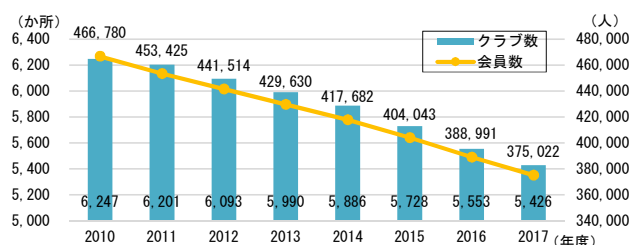
- ・内閣府が全国の60歳以上の者に対して行った調査によると、「住んでいる地域での社会的活動（貢献活動）状況」について、「特に活動はしていない」とする割合が約7割（69.9%）を占めている。
- ・高齢者が増加する中で、「老人クラブ」は、健康づくり、趣味、レクリエーション、学習活動など「生活を豊かにする活動」や、友愛活動、社会奉仕、伝承活動など「地域を豊かにする社会活動」を行っているが、加入者の減少によって、クラブ数、会員数ともに減少傾向にある。

◆ 住んでいる地域での社会的活動（貢献活動）状況について（60歳以上の者）（全国）（2016年）



出典：内閣府「高齢者の経済・生活環境に関する調査」（2016年）

◆ 本県の老人クラブ数と会員数の推移



出典：厚生労働省「福祉行政報告例」

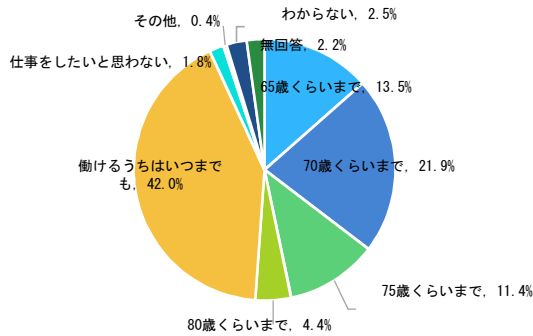
9

(4) 就業

1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

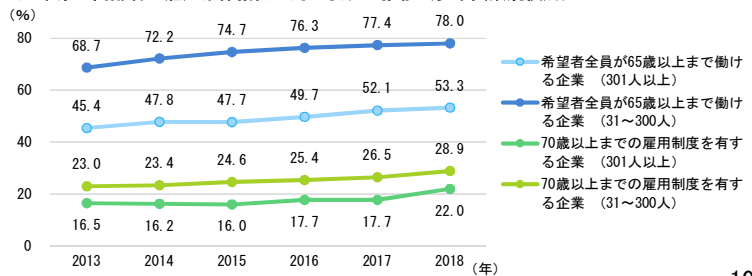
- ・全国調査によると、現在仕事をしている60歳以上の者の約4割が「働けるうちはいつまでも」働きたいと回答している。
- ・大企業より中小企業の方が、高齢者が長く活躍できる環境の整備が進んでいる。

◆ 現在60歳以上で仕事をしている者の就業希望年齢（全国）



出典：内閣府「高齢者の日常生活に対する意識調査」(2014年度)

◆ 本県の高齢者の雇用確保措置の対応状況の推移（従業員数規模別）



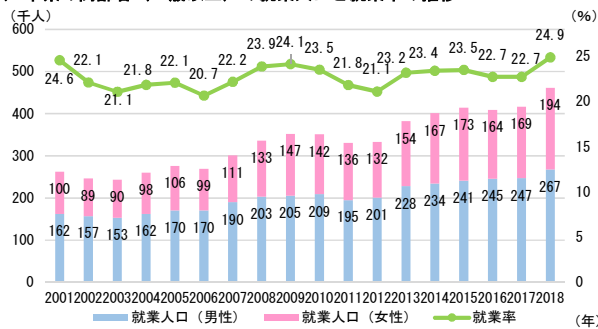
出典：愛知労働局「高齢者の雇用状況」

10

1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

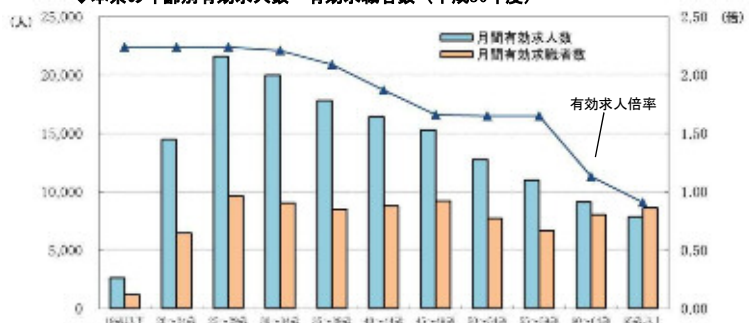
- ・本県の65歳以上の高齢者の就業率は24.9%で、高齢者の就業人口は増加傾向である。
- ・平成30年度の年齢別有効求人数・有効求職者数の状況によると、65歳以上に限っては有効求人倍率が0.91倍と、1.00倍を下回っている。

◆ 本県の高齢者（65歳以上）の就業人口と就業率の推移



出典：愛知県「あいちの人口」、愛知県「あいちの就業状況」

◆ 本県の年齢別有効求人数・有効求職者数（平成30年度）



出典：厚生労働省愛知労働局「平成31年3月分 最近の雇用情勢」

11

(5) 住まい

1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

- ・全国調査によると、高齢者（65歳以上）のいる主世帯（※）の8割以上が持ち家に居住している。一方、高齢者単身主世帯では、65.6%と持ち家率が低い。
- ・本県では、高齢者のいる主世帯のうち、高齢者のための設備が設置されている住宅は、持ち家では69%となっているが、借家では43%と低くなっている。

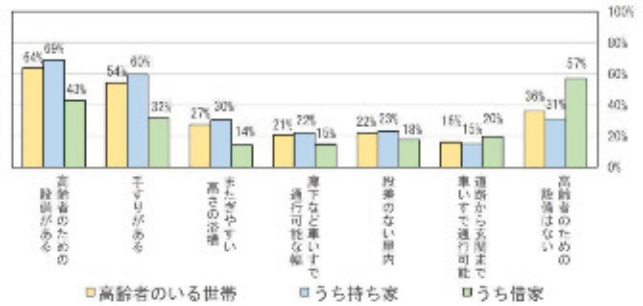
◆ 居住の状況



(※)主世帯
住居と生計を共にしている家族等のうち、同居世帯（家の持ち主や借主でない世帯）以外の世帯を指す。

出典:平成30年版高齢社会白書

◆本県の高齢者のいる主世帯における住宅のバリアフリー化の状況



出典:総務省統計局「住宅・土地統計調査」(平成25年)

12

1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

- ・住宅火災における死者数の7割が65歳以上の者である。

◆ 住宅火災における死者数の推移（放火自殺者等を除く）



資料:消防庁「平成28年(1月～12月)における火災の状況(確定値)」

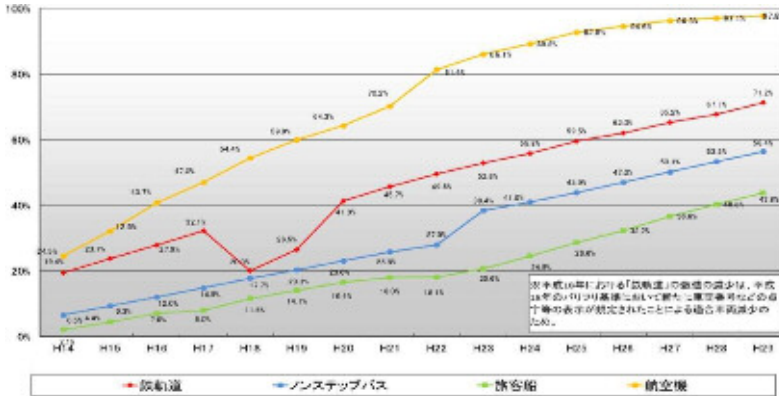
出典:平成30年版高齢社会白書

13

(6) まちづくり

- ・全国調査によると、公共交通等のバリアフリー化が進んでいる。
- ・60歳以上の方が買い物に行くときの交通手段として、都市の規模が小さくなるほど、自家用車を運転する割合が高くなる傾向がある。

◆車両等におけるバリアフリー化の推移



出典:国土交通省「公共交通移動等円滑化実績等報告」

◆60歳以上の方が買い物に行くときの主な手段（都市規模別）



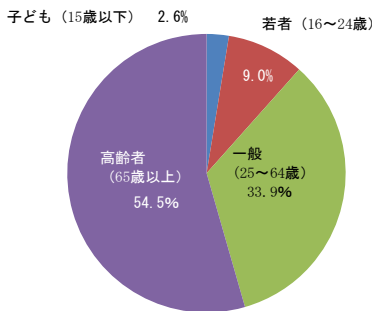
資料:内閣府「高齢者の経済・生活実態に関する調査」(平成28年)
 (注)1 調査対象は、大分県、熊本県を除く交通圏内世帯の世帯。
 (注)2 調査対象は、自家で買い物の方で「自分のお店に行く」と回答した者。
 出典:平成30年版高齢社会白書

14

(7) 交通安全・防犯

- ・本県の2018年の交通死亡事故では、高齢者の死者数が全死者数の54.5%を占めている。
- ・65歳以上の者の刑法犯罪被害認知件数に占める割合は増加傾向にある。

◆本県の交通事故死者の年齢層別割合（2018年）



出典:愛知県警察本部調べ

◆65歳以上の者の刑法犯罪被害認知件数



資料:愛知県の統計より内閣府作成。
 出典:平成30年版高齢社会白書

15

2 高齢社会に向けた愛知県の主な取組

2 高齢社会に向けた愛知県の主な取組

人口・世帯

〈高齢者人口の増加、
高齢夫婦・単独世帯の
増加〉

- ・見守りネットワーク構築の推進
- ・生活支援サービス（独り暮らし高齢者への配食サービス、掃除、調理等の支援）の提供体制の整備

健康

〈健康寿命の延伸〉

- ・高齢者の健康づくり支援（生活習慣病対策等）
- ・介護予防の推進
- ・高齢化に伴い必要となる病床数の確保
- ・在宅医療の提供体制の整備
- ・長寿研と連携した認知症予防プログラム作成

福祉

〈要介護者数・認知症高
齢者の増加、介護人材
の不足〉

- ・介護保険サービスの充実
- ・地域包括ケアの推進
- ・保健・医療・福祉人材の養成・確保
- ・介護ロボット、リハビリロボットの活用
- ・「あいちオレンジタウン構想」に基づく認知症サポーターの養成、認知症パートナー宣言

生きがい・ 社会参加

〈老人クラブ会員数の減少、社会的活動（貢献活動）への参加状況の低迷〉

- ・ 高齢者の社会参加促進（老人クラブの参加促進）
- ・ シルバーカレッジの充実
- ・ 生涯学習の推進
- ・ 世代間交流機会の拡充

就 業

〈高齢者の就業環境の整備〉

- ・ 中高年齢者の早期再就職支援
- ・ 高齢者が意欲や能力に応じて年齢に関わりなく働き続けられる環境の整備
- ・ 高齢者の体力やライフスタイルを踏まえた就業支援
- ・ シルバー人材センターを通じた就業支援

住まい

〈借家における高齢者のための設備設置率が低い、住宅火災による死者の多くは高齢者〉

- ・ サ高住等の民間賃貸住宅の供給促進
- ・ 公的賃貸住宅の供給、高齢者の優先入居
- ・ 既存住宅のバリアフリー化
- ・ 住宅防火対策の普及啓発

17

まちづくり

〈公共交通等のバリアフリー化の促進、外出時の交通手段の確保〉

- ・ 公共施設のバリアフリー化、人にやさしい街づくり条例による指導・助言
- ・ 都市の集約化
- ・ バス路線の維持
- ・ 自動運転の実現に向けた取組

交通安全・防犯

〈交通事故死者数や振り込め詐欺の被害者の多くが高齢者〉

- ・ 高齢者向けの交通安全対策、運転免許の返納
- ・ 詐欺被害対策

18

